

<特集「受動表現」>

カラチャイ語エスキシェヒル方言
－受動表現のデータ－
Eskişehir Karachay
-Data of passive expression-

菅沼 健太郎
Kentaro Suganuma

金沢大学人間社会研究域
Kanazawa University, Institute of Human and Social Sciences

要旨: 本稿の目的は、風間(2009)に記載されている受動表現のアンケート項目に対するカラチャイ語エスキシェヒル方言のデータを提供することである。

Abstract: The aim of this paper is to provide data on Eskişehir Karachay for the questionnaire items on passive expressions in Kazama (2009).

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001478>

キーワード: カラチャイ語エスキシェヒル方言, ヴォイス, 受動表現

Keywords: Eskişehir Karachay, voice, passive

1. はじめに

本稿が対象とするのは、トルコ共和国エスキシェヒル県で話されているカラチャイ語であり、本稿ではこれを「カラチャイ語エスキシェヒル方言」と呼ぶ。本稿の目的は、風間(2009)に記載されている受動表現に関するアンケート項目に対する同言語のデータを提示することである。

カラチャイ語エスキシェヒル方言は、カラチャイ語という言語の地域変種である。カラチャイ語はチュルク諸語北西語群に属し、主にロシア連邦内のカラチャイ・チェルケス共和国で話されている。しかし、19世紀から20世紀にかけてトルコ共和国へ移住したカラチャイ語母語話者もおり、現在もエスキシェヒル県などにカラチャイ語話者のコミュニティが存在する(Erdoğan & Aktaş 2016)。本稿のデータは、エスキシェヒル県出身のカラチャイ語母語話者 A 氏から得たものである^{1, 2}。このような社会言語学的な要因も相まって、データ内にはトルコ語の語彙がしばしば現れることをここで述べておく。なお、カラチャイ・チェルケス共和国で話されるカラチャイ語は、隣接するカバルダ・バルカル共和国で話されるバルカル語と相互に意思疎通が可能である。このため、両者をまとめて「カラチャイ・バルカル語」と呼ぶことがある。カラチャイ・バルカル語の受動表現に関する先行研究としては、Lytikova &



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 以下、A 氏の来歴を示す。1973 年生まれ、トルコのエスキシェヒル県、エスキシェヒル市出身。祖父母世代はロシア（ロシア帝国）からトルコに移住したカラチャイ語母語話者である。氏はカラチャイ語エスキシェヒル方言とトルコ語、および日本語を話せるが、第 1 言語はカラチャイ語エスキシェヒル方言であり、同言語を親族やカラチャイ語エスキシェヒル方言母語話者達からなるコミュニティ内での会話で用いている。

² 本稿ではトルコ語アルファベットに[ŋ]を加えた表記体系をカラチャイ語エスキシェヒル方言の表記に用いる。国際音声記号にない文字、あるいは国際音声記号と特に乖離がみられる文字とその音価は以下のとおりである。c [dʒ], ç [tʃ], ğ [ɣ], ı [u], ö [ø], ş [ʃ], ü [y], y [j]。

Bonch-Osmolovskaya (2006)および Lyutikova & Tatevosov (2015)などが挙げられる。これらの研究で記述されている受動表現の中には、トルコ出身の A 氏にとって非文法的と判断される例も存在した³。こうした相違には、上述の地理的・歴史的要因が関与している可能性がある。このような事情も踏まえ、本稿では言語名を「カラチャイ語」あるいは「カラチャイ・バルカル語」とせず、「カラチャイ語エスキシエヒル方言」とした。

2. アンケート結果

- (1) A は B に叩かれた。(直接受身)

Hakan-Ø Ali-ni tüy-dü-Ø.

NAME-NOM NAME-ACC hit-PST-3SG

“lit. ハカンはアリを叩いた。”

cf. [?]*Ali-Ø tüy-ül-dü-Ø.*

NAME-NOM hit-PASS-PST-3SG

“アリは叩かれた。”

- (2) A は B に足を踏まれた。(持ち主の受身, 体の部分)⁴

Hakan-Ø Ali-ni ayağ-ı-na bas-dı-Ø.

NAME-NOM NAME-GEN foot-3.POSS-DAT step-PST-3SG

“lit. ハカンはアリの足を踏んだ。”

cf. [?]*Ali-ni ayağ-ı-na bas-ıl-dı-Ø.*

NAME-GEN foot-3.POSS-DAT step-PASS-PST-3SG

“アリの足が踏まれた。”

³ 厳密に言えば、Lyutikova & Bonch-Osmolovskaya (2006)のデータはバルカル語に基づくものであり、カラチャイ語については言及されていない。一方、Lyutikova & Tatevosov (2015)はカラチャイ・バルカル語を扱っていると述べているが、掲載されているデータを見る限り、バルカル語のデータが多く含まれている印象を受ける。例えば、カラチャイ語では後部歯茎音[ɟʒ]で発音される箇所が、当該論文では歯茎音の z で表記されている。このように[ɟʒ]を[z]と発音する特徴はバルカル語に見られるものである (cf. 林 1988: 1279)。なお、A 氏が非文法的と判断した例をいくつか挙げると、Lyutikova & Bonch-Osmolovskaya (2006)では、二重受身文や動作主を文中に含めた受身文が可能であると記述されている。しかし、A 氏によればこれらはいずれも容認できないという(動作主を文中に入れ込んだ受身文について、後述の(1)~(3)等で述べる通り、A 氏にとっては受身文の場合、動作主を文中に入れ込むことはできない)。

・二重受身文

inek-Ø urla-n-ıl-ğan=dı
cow-NOM stole-PASS-PASS-PRF=3SG

“牛が(誰かの命令によって)盗まれた。”

・動作主を文中に含めた受身文

it-xe taş-Ø alim-den siz-ıl-dı-Ø
dog-DAT stone-NOM NAME-ABL throw-PASS-PST-3SG

“犬にアリムから石が投げられた。”

[Lyutikova & Bonch-Osmolovskaya (2006: 396-397) ※例文表記のアルファベットは同文献のものを使用した。]

⁴ (2)について、動詞 *bas* “踏む”は *ayağ-ı-na* (foot-3.POSS-DAT) のようにその目的語を与格で示す。この与格表示は(2cf)にも示すように受身文でも維持され、(2cf)で *ayağ-ı-Ø* (foot-3.POSS-NOM) のように主格表示した場合は、(不自然という判断に留まるのではなく、) 明らかな非文であると判断される。

- (3) A は B に財布を盗まれた。(持ち主の受身, 持ち物)
Hakan-Ø Ali-ni cüzdan-ı-n urla-di-Ø.
 NAME-NOM NAME-GEN wallet-3.POSS-ACC stole-PST-3SG
 “lit. ハカンはアリの財布を盗んだ。”
 cf. [?]*Ali-ni cüzdan-ı-Ø urla-n-di-Ø*
 NAME-GEN wallet-3.POSS-NOM stole-PASS-PST-3SG
 “アリの財布が盗まれた。”

これらの文は受動文ではなく、能動文として現れた。A 氏によれば、これらを受動文で表そうとすると、(1) ~ (3)の各 cf.に示した形になるが、いずれも非常に不自然であり、また *Hakan* のような動作主を文中に挿入することはできないという。

さらに A 氏からは、動作主が不明であるものの、ひとまず目的語に何らかの事象が起こったことを伝えたい場合には、次のような三人称複数形の能動文を用いることも可能であるとの指摘があった。この形式は、主語および述語の人称マーカーがともに三人称複数形であるが、動作主が複数である場合に限らず、単数と想定される場合にも用いられるとのことであった。

- (1') *(Biröv-le-Ø) Ali-ni tüy-gen=dile.*
 someone-PL-NOM NAME-ACC hit-PRF=3PL
 “(誰か, あるいは複数の誰かに) アリは殴られた。 lit. 複数の誰かがアリの殴った。”
- (2') *(Biröv-le-Ø) Ali-ni ayağ-ı-na bas-ğan=dıla.*
 someone-PL-NOM NAME-GEN foot-3.POSS-DAT step-PRF=3PL
 “(誰か, あるいは複数の誰かに) アリは足を踏まれた。 lit. 複数の誰かがアリの足を踏んだ。”
- (3') *(Biröv-le-Ø) Ali-ni cüzdan-ı-n urla-ğan=dıla.*
 (someone-PL-NOM NAME-GEN wallet-3.POSS-ACC stole-PRF=3PL
 “(誰か, あるいは複数の誰かに) アリは財布を盗まれた。
 lit. 複数の誰かがアリの財布を盗んだ。”

次に以下の(4)では能動文が得られた。別の間接受身の自動詞も提示したが、受動化は不可とのことであった。

- (4) 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。(自動詞からの間接受身)
Gıkkā-Ø cıla-di-Ø, anı üçün cukla-yal-ma-di-m.
 baby-NOM cry-PST-3SG that.GEN because sleep-POT-NEG-PST-1SG
 “lit. 赤ん坊が泣いたので、私は眠れなかった。”

(5)と(6)の文では受動文を用いることが可能とのことであった。また(5)の文について、A が直接建てたわけではなく、A の支援や命令を通じて建物が建てられたのであれば、*A-ni küç-ü bla*“A の力で”という表現を挿入できるというコメントをいただいた⁵。

- (5) 新しいビルが (A によって) 建てられた。(モノ主語受身, 一次的)

(Ali-ni küç-ü bla) cañğı üy-Ø et-il-di-Ø.

NAME-GEN force-3.POSS with new house-NOM build-PASS-PST-3SG

“lit. アリの力で新しい家が建てられた。”

- (6) カナダではフランス語が話されている。(モノ主語受身, 恒常的, 動作主が問題にならない場合)

Kanada-da fransızca-Ø söleş-il-e=di.

Canada-LOC French-NOM speak-PASS-NPST=3SG

(7)は(5), (6)同様モノ主語であるが受身形にはできず, (1')~(3')と同じ構文をとる。

- (7) 財布が (A に) 盗まれた。(モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される)

(Biröv-le-Ø) cüzdan-nı urla-ğan=dıa.

someone-PL-NOM wallet-ACC stole-PRF=3PL

“lit. 複数の誰かがアリの財布を盗んだ。”

(8)は受身形で表すことができる。

- (8) 壁に絵が掛けられている。(モノ主語受身, 結果状態の叙述)

Huna-ğa surat-Ø as-il-ğan=di.

wall-DAT picture-NOM hang-PASS-PRF=3SG

(9)は能動文が得られた。しかし, (9')のように受動文で表現することも可能である。ただしこの場合「アリを愛している人物」, すなわち「愛する」という動詞の経験者は文中に入れ込むことはできない。

- (9) A は B に / から愛されている。(感情述語の受身)

Harkim-Ø Ali-ni süy-e=di.

everyone-NOM NAME-ACC love-NPST=3SG

“lit. みんながアリを愛している。”

⁵ カラチャイ語エスキシエヒル方言話者の A 氏にとって, *A-ni küç-ü bla* “A の力で” は受身文における動作主そのものを表すことはできない表現のようである。一方でカラチャイ・バルカル語について扱っている Lyutikova & Tatevosov (2015)では, この表現は以下の例文のように受身文の動作主を示すことができる表現であることが示されている (bla は ble とも発音されるとされており, 以下の例文は同文献にある通りに記載した)。

kölek-Ø kerim-ni küc-ü ble zırt-il-di-Ø.

shirt-NOM NAME-GEN force-3.POSS with tear-PASS-PST-3SG

“シャツがケリムによって破かれた。”

[Lyutikova & Tatevosov (2015: 19) ※例文表記のアルファベットは同文献のものを使用。]

(9') *Ali-Ø siiy-ül-e=di.*

NAME-NOM love-PASS-NPST=3SG

“アリは愛されている。”

(10)~(12)は全て能動文が得られ、受動文にすることはできないとのことであった。結果として、(11)と(12)は全く同じ文が回答として得られた。

(10) AはBに/から「掃除をしろ」と言われた。(伝達動詞の受身)

Hakan-Ø Ali-ge “temizlik et-Ø” de-b ayt-dı-Ø.

NAME-NOM NAME-DAT cleaning do-2SG.IMP say-CVB say-PST-3SG

“lit. ハカンはアリに「掃除をしろ」と言った。”

(11) AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

Hakan-Ø Ali-ni çakır-dı-Ø. Ali-Ø bu saġat-da Hakan-nı oda-sı-na

NAME-NOM NAME-ACC call-PST-3SG NAME-NOM this time-LOC NAME-GEN room-3.POSS-DAT

bar-a tur-a=di.

go-CVB stand.AUX-NPST=3SG

“lit. ハカンはアリを呼んだ。アリは今ハカンの部屋に行っている。”

(12) BさんがAさんと呼んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

Hakan-Ø Ali-ni çakır-dı-Ø. Ali-Ø bu saġat-da Hakan-nı oda-sı-na

NAME-NOM NAME-ACC call-PST-3SG NAME-NOM this time-LOC NAME-GEN room-3.POSS-DAT

bar-a tur-a=di.

go-CVB stand.AUX-NPST=3SG

“lit. ハカンはアリを呼んだ。アリは今ハカンの部屋に行っている。”

総括すると、カラチャイ語エスキシヒル方言で違和感なく受身形が用いられるのは、(5), (6), (8)のようなモノが主語である受身(被影響者が想起される(7)を除く)と、(9)の感情述語の受身の2つに限られ、かつ動作主や経験者はその受身文に入れ込むことができないという結果になった。

略号

1, 2, 3	1, 2, 3 人称	IMP	命令	PL	複数
ABL	奪格	LOC	位格	POSS	所有
ACC	対格	NAME	固有名詞	POT	可能
AUX	補助動詞	NEG	否定	PRF	完了
CVB	副動詞	NOM	主格	PST	過去
DAT	与格	NPST	非過去	SG	単数
GEN	属格	PASS	受身		

参考文献

- Erdoğan, Boz and Semra Günay Aktaş. 2016. Diaspora Karaçay Türkçesinin kullanımı Eskişehir Örneği [Use of Karachay Turkish in Diaspora Case of Eskişehir]. *Uluslararası Türkçe Edebiyat Kültür Eğitim Dergisi [International Journal of Turkish Literature Culture Education]* 5(1). 145–155.
- 林徹. 1988. 「カラチャイ・バルカル語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典（第1巻 世界言語編 上）』1279–1280. 東京：三省堂.
- 風間伸次郎. 2009. 「受動表現」『語学研究所論集』14. 15–31.
- Lyutikova, Ekaterina and Anastasia Bonch-Osmolovskaya. 2006. A very active passive: Functional similarities between passive and causative in Balkar. Leonid Kulikov, Andrej Malchukov and Peter de Swart (eds.) *Case, Valency and Transitivity*. 393–416. Amsterdam: John Benjamins Publishing.
- Lyutikova, Ekaterina and Sergei Tatevosov. 2015. Recursive Passivization: A Causative Coercion Account. Stela Manova (ed.) *Affix Ordering Across Languages and Frameworks*. 17–52. Oxford University Press: New York.

執筆者連絡先 : suganumak@staff.kanazawa-u.ac.jp

原稿受理 : 2025 年 11 月 7 日

刊行年月日 : 2026 年 3 月 31 日